

2018（平成30）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

食・健康学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は3ページから4ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 5 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。





**問題** 日本の健康格差と生活習慣に関する問題である。表1は所得と生活習慣等に関する状況を示している。文章と表を参考に問1～2に答えなさい。

近年、家族や生活の状況が変化する中で、高齢者を始めとする単独世帯やひとり親世帯<sup>注1)</sup>、貧困の状況にある子供に対する支援が重要な課題になっている。

世帯所得が低い家庭の子供は、朝食欠食者が多く、野菜の摂取頻度が低く、手軽にとることができるインスタント麺やパン類などの穀類の摂取頻度が高いことが知られている。朝食欠食や野菜摂取不足、穀類に偏った食べ方を子供のころから習慣化することは望ましくない。また、食品を選択する際、世帯所得の低い人は「価格」を重視し、「価格」以外の栄養面や安全性などを配慮することがむずかしい状況である。そのため、世帯の経済状態は、大人だけでなく子供の食品の摂取状況にも影響し、食生活の格差がみられ、健康にも影響を及ぼす可能性が高い。

貧困は、疾病と死亡の最大の要因のひとつで、日本においても貧困層の子供は、非貧困層に比べて1～6歳までに何らかの疾病で入院する者の割合が1～3%高いという報告<sup>1)</sup>もあり、子供の健康に悪影響を及ぼしていることが示唆される。また、成人においても、所得、教育を受けた年数、職業等の社会的経済的要因と生活習慣病<sup>注2)</sup>の要因となる生活習慣との関連が知られている。

このように、経済格差が健康格差をうむことが明らかである。全ての人びとが健康な生活を送るための取組が望まれている。

注1) 父親または母親のいずれかと、その子とからなる家庭のこと。

注2) 生活習慣が発症原因に深く関係していると考えられる疾患のこと。がん、循環器疾患、糖尿病などがある。

---

出典

1) 阿部彩, 子どもの健康格差の要因 ―過去の健康悪化の回復力に違いはあるか―, 医療と社会, 22:255-69(2012)

表 1. 所得と生活習慣等に関する状況（20 歳以上）

		割合または 1 日当たりの平均		
		世帯所得 200 万円未満	世帯所得 200 万円以上～ 600 万円未満	世帯所得 600 万円以上
1.食生活	穀類摂取量（男性）	535.1 g	520.9 g	494.1 g
	（女性）	372.5 g	359.4 g	352.8 g
	野菜摂取量（男性）	253.6 g	288.5 g	322.3 g
	（女性）	271.8 g	284.8 g	313.6 g
	肉類摂取量（男性）	101.7 g	111.0 g	122.0 g
	（女性）	74.1 g	78.0 g	83.9 g
2.運動	歩数の平均値（男性）	6,263 歩	7,606 歩	7,592 歩
	（女性）	6,120 歩	6,447 歩	6,662 歩
3.たばこ	現在習慣的に喫煙している者の割合（男性）	35.4%	33.4%	29.2%
	（女性）	15.3%	9.2%	5.6%
4.体型	肥満者の割合（男性）	38.8%	27.7%	25.6%
	（女性）	26.9%	20.4%	22.3%

出典：平成 26 年度国民健康・栄養調査結果の概要（厚生労働省）より（出題のため抜粋、一部改編）  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h26-houkoku.html> より 2017 年 12 月 15 日取得

問1. 文章と表からよみとれる世帯所得と生活習慣等の関係を 300 字以内でまとめなさい。

（英語で解答する場合は、150 words 以内で述べなさい。）

問2. 低所得世帯の生活習慣等を改善する対策について、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。

（英語で解答する場合は、150 words 以内で述べなさい。）



